

令和5年度 女性の知恵で社会をデザイン する講座@埼玉大学

実施報告書

令和5年 6月19日～7月10日(全8回) 埼玉大学大学会館



パートナーシップさいたま
さいたま市男女共同参画推進センター

趣旨

女性が日々の生活の中で、あるいは人生の節目において感じる悩みや疑問。これらは「個人的なこと」あるいは「自己責任」と思われがちですが、実際は地域や社会の課題であることも少なくありません。

この講座では、一人ひとりの日々の暮らしと、社会の制度やまちのあり方が密接に関連することを学びます。

また、ワークショップで共通の関心事を持つ女性とつながるきっかけを提供し、仲間と取り組む調査・考察・取材などにより望ましい社会やまちの姿を形にし、成果報告としてグループ発表を行います。



プログラム ※時間はいずれも10:40~14:30(休憩1時間)

	日程	テーマ	講師	詳細
1	6/19 AM	講義「女性の知恵で社会をデザイン」なぜ必要か	瀬山氏	地域住民発の課題解決についての基本的な考え方と、日本の女性を取り巻く社会状況についての情報提供
2	6/19 PM	ワークショップ「想いをカタチにすると何かが始まる」	古川氏	参加者自身が地域・家族・働く環境などに、感じることを小グループで話し合う
3	6/26 AM	講義「地域の課題解決に私たちの力を活かすということ」	レインボー さいたまの会	住民による課題解決アクションの考え方と事例にふれる
4	6/26 PM	ワークショップ「私たちだから見えること & 言えること」	瀬山・古川	グループを作り、それぞれ取り扱うテーマを決めて課題を洗い出す
5	7/3 AM	ワークショップ「想いをカタチにしよう！」 1	瀬山・古川	グループ内で課題とそれに対応する提言を導き出す
6	7/3 PM	ワークショップ「想いをカタチにしよう！」 2	瀬山・古川	プレ発表 ブラッシュアップのポイント洗い出し
7	7/10 AM	成果報告「社会をデザインする私たち」1	瀬山・古川	成果報告の準備・練習など
8	7/10 PM	成果報告「社会をデザインする私たち」2	瀬山・古川	成果報告・講評・プロセスふり返り 【講評者】・さいたま市議 ・イクボス共同宣言事業者

講師

・瀬山紀子 さん(埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授)

専門分野は社会学、ジェンダー論。台東区立男女平等推進プラザ、港区立男女平等参画センターでコーディネーター、埼玉県男女共同参画推進センターで事業コーディネーターを務める。2022年6月より、埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授。著書に『行き還り繋ぐ 障害者運動 於&発 福島の50年』(共著、生活書院、2019年)、『男女平等はどこまで進んだか：女性差別撤廃条約から考える』(共著、岩波ジュニア新書、2018年)、『障害者介助の現場から考える生活と労働：ささやかな「介助者学」のこころみ』(共編著、明石書店、2013年)など。

・鈴木翔子さん(レインボーさいたまの会共同代表)

埼玉県内において、性自認・性的指向に起因する差別や偏見をはじめ、性的少数者や家族などが抱える困難などを解消し、誰もが「ありのままに」「自分らしく」生きていけるよう、多様性を尊重する地域社会の構築を推進して活動する。性的少数者と支援者(アライ)の居場所づくり・交流会、性的少数者への理解を求める学習会への講師派遣、同性を含めたパートナーシップの認証制度や性的少数者に関する困難解消を求める政策制度実現、地域社会への「LGBTQ」啓発活動などの活動を展開する。

・古川晶子(パートナーシップさいたま事業コーディネーター)

講座企画担当。本講座ではワークショップのファシリテーターもつとめる。

講義

「女性の知恵で社会をデザイン」 なぜ必要か

瀬山紀子
(埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授)



- ・「決めごとの場にいるのは誰か」を問う視点をもつ／そのことの意味をつかむ
- ・ジェンダー多様性の視点から見た、現状の社会／地域／埼玉の課題について知り、課題によってもたらされている問題に関心を向けるようになる

- 1) 「決めごとの場にいるのは誰か」を問う視点
- 2) 決めごとの場にいるのは誰か
- 3) <自分の問題>と<社会の問題>との接合




講義

「地域の課題解決に私たちの力を
活かすということ」

伝えていく 変えていく 社会

鈴木翔子
(レインボーさいたまの会共同代表)



・LGBTQとは？

LGBTQ問題の特徴・LGBTQ共通の困難

・活動概要

自治体等への政策提言・理解促進のための講演・地域社会への浸透

・変わっていく社会

自治体・企業の実践事例

誰もが「ありのまま」で暮らせる社会であるために



成果報告 テーマ(メンバー名)

- ・生理をオープンにする社会を目指して
(きき なお みゆ ゆうむ りみ れいこ)
- ・個性を認め合える教育
(あや・かとう・りゅうと・ゆい・なおき・かえで・みゆな・すず)
- ・人間らしく生きるための多様な議会づくり
(りく・アリマ・野村・たつひろ・まちこ・ちさこ・たける)
- ・聞いてよ！さいたま子育てプロジェクト
(さやか、天音、なるせ、ユカリ、しんや)



成果報告会 講評者

・さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会より

相川綾香議員、稲川智美議員、大貫田鶴子議員、久保美樹議員、佐々木郷美議員、永井里菜議員
より豊かなさいたま市となることを目指して多様性を認め合うグループ。
さいたま市議会議員で構成される。

・さいたまイクボス共同宣言事業者より

損害保険ジャパン株式会社 さいたま中央支店 さいたま支社 支社長 村山 高幸 様
日本郵便株式会社 関東支社 慈恩寺郵便局 局長 山本 邦夫 様

平成29年度「さいたまイクボス共同宣言」にもとづくグループ。
仕事と生活の調和を大切にしながら、充実した生活を送ることができる社会をめざし、イクボスの精神と働き方の見直しについて、地域の人々と共に考えながら地域社会全体に広げていくことを目的とする。
さいたま市と連携の実績ある「包括連携協定企業」「大学コンソーシアムさいたま」とさいたま市で構成される。

講評より

- 身近なテーマを元に考えを深めた発表
- 大胆な意見がそれぞれのグループからできるのが非常に良い
- 課題を出し、原因を分析、明確にしたうえで解決案が出ていて非常にわかりやすかった
- 男女一緒に小学生の時期から性教育をしていくとっても大事
- 無作為抽出されたいろいろな人がくらしについて話す！面白い！！
- 生徒自身が規則を考える、主体者になるとてもいい
- 100%働ける人だけで社会ができていくわけではない。事情がある人がいればおたがいに負荷がかかるかもしれないけど、それこそが社会。
- 組織は、育休する人がいることを見越して職場を設計するべきなのだと気付かされる
- 社会をデザインするというテーマで、非常に共感

参加者感想より

- 学生さんの斬新な意見に触れ楽しかったです。一人一人の意見を付箋に書き系統だてて分類しそれをまとめて学生さんが立派にまとめて発表してくれた事に感動しました。今まで話し合いをしても何となく終わっていましたが、意見をまとめて発表した事に充実を覚えました。又市会議員や企業の方達に講評を頂き私たちの意見が届いた感じを持ちました。レインボーさいたまの会の話聞いて議員の方に請願を届ける事によりマイノリティーの意見も議会に反映していく道がある事をしりました。議会を身近に感じる事が出来ました。楽しい四日間でした。
- 何を自分たちが訴えたいのか話し合い「制服」から課題につなげることになりました。話し合いを通じてみなさんの意見がこんなにも違い、一人だとわからなかったことがみなさんに助けてもらいとても良い提言発表ができグループの皆さんに感謝します。そして学生たちとはお別れなのが残念?!寂しい気持ちです。今回学んだことをこれからの活動に役立てていきたいと思えます。また機会があったら参加したいです。



参加者感想より

- 今回、受講を迷っていましたが結果的に、参加して大正解でした。まず、学生さんや色々な立場の方と意見交換することができてとても良かったです。学生さんにも「いい経験になった」と言っていただけでも嬉しいです。ジェンダー平等を進めることは、ひいてはダイバーシティ、みんなが生きやすい社会創りを進めることになると思っています。社会の中には色々な立場の方がいます。人は見聞きしたものしか他者のことを理解できないものです。多くの方と交流すること、また意思決定の場に、女性やジェンダーマイノリティの方が入って行くことが、のびのび生きられる街になるために、とても重要だと改めて感じました。協力し「シンカ」させて行きたいと思います。
- 父親の育休に関する政策は、想像以上に多く、それなのに運用されていないのはなぜか。取りづらい雰囲気がある、そこまではわかったが、打開する提言は思いつかない。そんな中メンバーの1人が、地方公共団体が、個人の相談を集めて企業にフィードバックする、という意見を出してくれてありがたかった。自分1人では限界のある思考に広がりを持たせてくれて、グループで話し合うことの大切さを知った。また自分も頭をフル回転させていたので、その意見の良さもわかったのだとも思った。

参加者感想より

- あまり話さなかった人もいたし、もっと色々な話できたらよかったけど、時間が足りなくて残念でした。学園祭みたいな時に、講座に居なかった人とかにも発表を見てもらえたら、もっと広がりがあったのかも。みんなで社会をめちゃくちゃにするだけになってダメだから、市民が関わるだけじゃなくて賢くならないとダメだと思いました。
- 社会人になってからは、大学生の方とお話する機会もそうないですし、埼大キャンパスに入る機会も、初めてでしたのでとても貴重な経験でした。ダイバーシティや、多様性というワードはここ数年メディアで耳にすることが多い言葉でしたが、今回この講座に参加するまで本質的なことは何もわかっていなかったな！と実感させられました。女性の社会進出も以前よりは進んでいるものの、世界と比較すれば日本はまだまだなんだなあと感じました。マイノリティーの人たちも含めて、全ての人達が自分らしく生きていけるように、まだまだ日本は過渡期だと思いますが、法整備や社会の認識が進化していれば良いなと願うばかりです。



成果報告会 「社会をデザインする私たち」

報告者プレゼン資料



生理をオープンにする 社会を目指して

きき なお みゆ ゆうむ りみ れいこ

1

提言

より多くの小学校で男女合同の 性教育が行われること

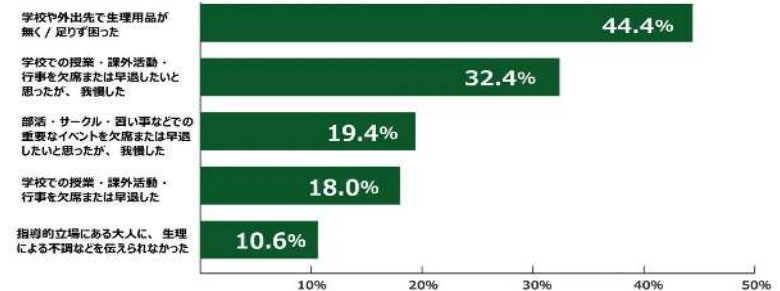
2

現状

- 生理を公にしてはならないという風潮
- 理解が薄いことから起こる生理休暇の取得のしづらさ
- 生理への気遣いがセクハラとして扱われてしまうことも

3

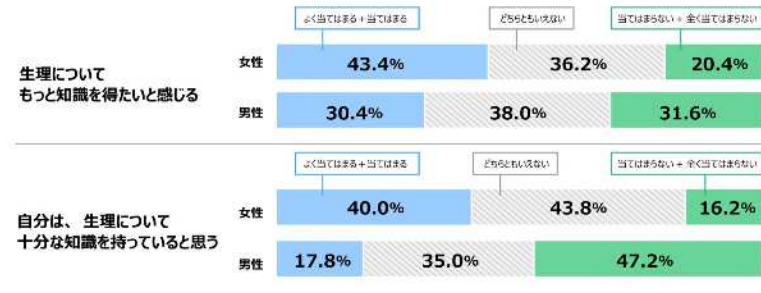
日常のさまざまな不便・周囲の不理解



出典：日本財団による18歳意識調査、「女性の生理」について若者の知識不足や周囲の不理解、経済的負担などが明らかに|EdTechZine (エドテックジン)

4

生理に関する知識・理解



出典：日本財団による18歳意識調査、「女性の生理」について若者の知識不足や周囲の不理解、経済的負担などが明らかに | EdTechZine (エドテックジン)

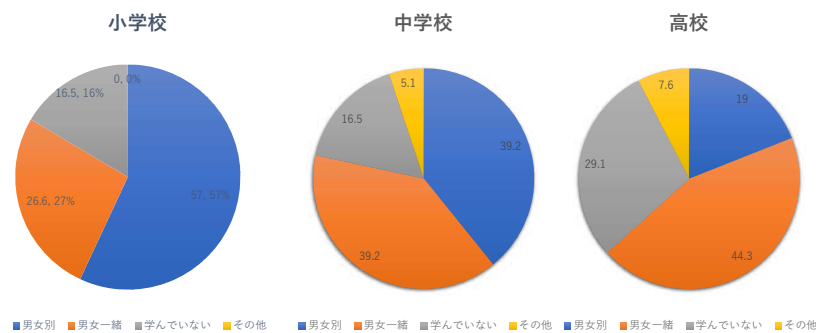
問題意識

- 男女別の生理の授業
- 小・中学校の性教育自体の遅れ



男女間・女性間で知識や理解の偏りが生まれ、女性が生きづらい世の中に

生理についての授業の実施形態について



全体：79件

問題意識

- 男女別の生理の授業
- 小・中学校の性教育自体の遅れ



男女間・女性間で知識や理解の偏りが生まれ、女性が生きづらい世の中に

外部講師への委託の意義

「文部科学省が定める指導要領には「初経」について教えることは記されていますが、「思春期になると生理が始まる」ということ以上に、何をどのくらい教えるかは学校や担任の先生に委ねられています。」

～生理について学校でだからこそ教えられること～ [性教育について考える\(1\) - 記事 | NHK ハートネット](#)より引用

9

大人に対する生理の教育

- ・生理に関する知識向上と職場における相互理解を促進する研修プログラム
- ・義務教育以降改めて学ぶ機会が少ない「生理の仕組み」などの基本的な知識をはじめ、一人ひとり異なる生理にまつわる様々な不調や悩みについて学べる



10

まとめ

- ・生理の辛さや症状に関する授業を、男女合同の形態で受講する
- ・外部講師に委託する



生理に関する悩みの少ないオープンな社会へ

11



個性を認め 合える教育

あや・かとう・りゅうと・ゆい
なおき・かえで・みゆな・すず

1



問題提起

学校のルールของすべてが本当に必要なものなのか？

2

学校のルール全てが 本当に必要なもの なのか

□制服を強制される

→式では制服を着用するべきだが、普段の生活で制服の強制着用は必要なのだろうか…

□本当に必要なかわからない校則がある

→変えてほしいと感じていても、「どうせ変わらないから」と意見を発信する人が少ない

□持ち物の指定が多い

→指定をすることで、マイノリティを作ってしまうのではないか



学校のルールของすべてが 本当に必要なものなのか

□あだ名を使ってはいけない

→○○さんとしか呼んではいけない理由は？

□出席簿や背の順が男女別

→男女別にする必要はあるのか。LGBTQの人の気持ちを！

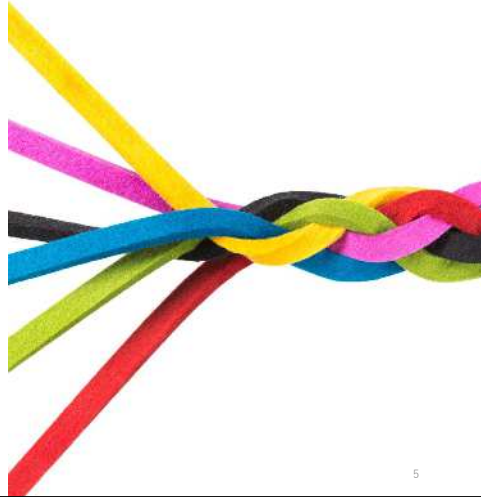
□みんなのトイレの設置

→多目的トイレがある学校もあるが、LGBTQの人や障がいを持つ人も入れるトイレの設置を！

4

提言①

- 制服の規則の緩和
 - 普段の服装を制服か私服を選べるように
 - 制服のレンタル



5

提言②

- 生徒会選挙の時に政策提言ボックスを設置する
 - 我慢している意見を集められる場を作るべき
 - 日本では意見を出す人が少ないが、意見を出す機会を平等に作る。



実際の選挙でも会場に意見箱を設置するべきではないか

6

提言③

- 男女の意見を議論できる機会を作る
 - 話し合う場を作り、若いうちから議論を深められる環境を！



7

提言④

- 校則を学校側と生徒が話し合って決める
 - 校則を押し付けられているから反発したくなる
 - 生徒自身が決めた校則は生徒は守るのではないか？



8



ご清聴ありがとうございました



人間らしく生きるための 多様な議会づくり

りく・アリマ・野村・たつひろ・まちこ・ちさこ・たける

1

提言内容

- ・議会の多様化を進めること
- ・市民と議会の関わりを増やすこと



2

市民と議会との関係・距離

○問題点

- ・市民にとって議会が身近じゃない
(交流がない)
(そもそも議会に興味がない)
(お堅い、難しそうなイメージ)
- ・意見が反映されない

3

市民と議会との関係・距離

○対策

- ・市民と議会の交流を増やす
- ・傍聴会の時間帯や日程を市民が参加しやすいように工夫する
(休日・夕方～夜間など)
- ・議会に興味を持ってもらえるようにSNSやメディアを用いて発信する

4

議会の多様性を確保するために

○問題点

- ・ 特定の人ばかりが議員になっている
例) さいたま市議会の女性議員数が
60人中16人 (2023年)
→男性が多い
- ・ マジョリティ寄りの議会になっている
→少数派の意見が反映されにくい
- ・ 投票率が低い

議会の多様性を確保するために

○対策

- ・ クォータ制の導入 (女性、障害者、外国籍の方を適切な割合で)
- ・ 投票しやすい仕組みづくり
例) 投票所を増やす、投票割引・クーポンの導入など
- ・ 裁判員制度を参考に市民全員の出馬を義務化する
- ・ 小選挙区制を撤廃して比例代表制にする
→多党化につなげる
- ・ 出馬の年齢制限の緩和

まとめ

- ・ 議会の多様化を進めること
 - ・ 市民と議会の関わりを増やすこと
- 以上の2点の実現を求めます。



聞いてよ！さいたま 子育てプロジェクト

さやか【学生】、天音【学生】、なるせ【学生】、ユカリ【一般】、しんや【一般】

1

問題意識

男性の育児休業取得率がまだ
に14%と少ない

- 取得中も8割の給与を保証
- 税金の待遇等もある
- 県などから給付金等も存在

?

お金が取得を阻んでいる理由の一番ではないでは

2

内閣府による 未取得理由

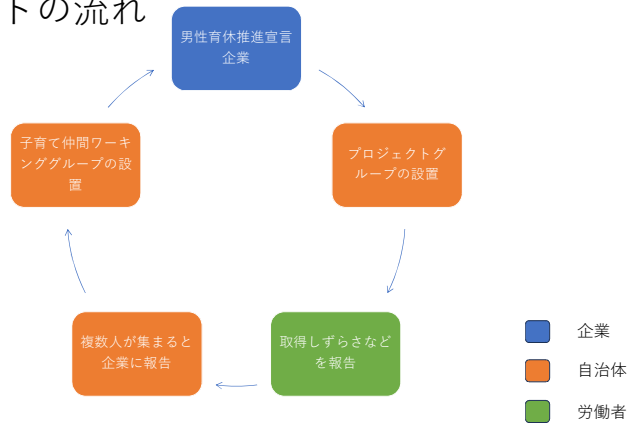
- 取得したかったが、取得できなかった理由
 - 取りづらい雰囲気だった (29.1%)
 - 日頃から休暇を取りづらい (25.1%)
- //////
- 所得減の恐れ(17.6%)

【参考】内閣府, 男性の育児休業取得について
<https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000676815.pdf>

取得しづらい雰囲気 に着目

4

プロジェクトの流れ



5

県・市の 機関が行 うこと

- 声を企業に伝える役割
- 企業内に存在する、子育ての悩み・育休取得に対する悩みを持つ労働者を繋げる
- 声が聞こえることで取得率が上がった場合、成功した企業の報告を行う

6

聞いてよ！ さいたま子 育てプロ ジェクト

- 労働組合や人事が行うことを、プロジェクトが補完するイメージ
- 中小企業だと、なかなか労働組合や人事に力を入れづらい

→自治体はその役割を手伝う

7